



横浜市立一本松小学校

7月号

学校だより

令和元年6月28日

横浜市立一本松小学校

校長 小原 健人

学校行事の意義

校長 小原 健人

梅雨に入り、紫陽花の輝きが増してきました。雨の日が多く、校庭で活動できない時間も増えていますが、子ども達は室内での過ごし方を考え、毎日元気に過ごしています。

気が付けば7月。早いもので入学・進級して3か月が経とうとしています。7月は何といっても一本まつりがあります。そして夏休みが始まります。

先日、6年生と日光修学旅行に行つてまいりました。天候にも恵まれ、1日目は華厳の滝や湯滝、戦場ヶ原といった雄大な自然に触れ、2日目は東照宮の三猿、鳴き龍、陽明門、眠り猫など、先人の知恵と美しい文化遺産を満喫しました。

一本松小学校はこれまで、「行事の見直し」として、泊を伴う学習の意義と、それぞれの学年の発達段階に合ったプログラムであるのかを検討してきました。そして今年度より、4年生は野島への体験学習、5年生は赤城への体験学習、そして6年生は日光への修学旅行を実施しています。

今回の6年生の修学旅行で言えば、先ほど述べました通り、まさに小学校最後として「学を修める」にふさわしい旅行になったと思います。2日間、6年生が最上級生としてふさわしい振る舞いを見せてくれたこと、修学旅行という場でしかできない学びをたくさん重ねたことは言うまでもありません。

よく、「行事」と言いますが、正式には「学校行事」という名称で、始業式や卒業式などの「儀式的行事」、運動会などの「健康安全・体育的行事」などがあります。修学旅行などは「遠足・集団宿泊的行事」となり、「自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などの親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること」と書かれています。

野島体験学習へ行ってきた4年生、秋に赤城体験学習を控える5年生、西区の行事として体験学習に行く3・4組のみなさん、一本松小学校から離れた地での貴重な「体験」は「深い学び」となり、ずっと忘れない素敵な思い出となることでしょう。

それぞれの行事はどれも子どもたちを大きく成長させます。これからも一本松小学校では様々な行事が行われます。そこから子どもたちが何を感じ、どのような成長を見せてくれるのか、今から本当に楽しみです。

さて、いよいよ一本まつりが近づいてきました。学校でも職員室前におみこしが置かれたり、クラスパフォーマンスの音楽が聞こえてきたりと、準備も盛り上がってきました。一本まつりは子ども達、職員、保護者の皆様、地域の皆様で作上げる、本校の大きな特徴であり、誇るべき「行事」です。保護者の皆様、地域の皆様に見守られ、今年も大きく成長することでしょう。

子ども達の思いや願いを実現させようとしてご尽力いただいている、「大人実行委員」を中心とした保護者や地域の皆様には改めてお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

今月もご支援ご協力のほど、よろしくお願いたします。